

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌平岡	評価実施年月日	平成19年6月1日～6月20日
評価実施構成員氏名	○管理者 工藤 高士 ○Bユニット ユニットリーダー・計画作成担当者 工藤 高士 介護従業者 竹本 慎 ・ 中山 順子 ・ 仲川 なつみ ・ 志賀 喜美子 清永 和子 ・ 福士 葉子		
記録者氏名	工藤 高士	記録年月日	平成19年6月29日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>毎朝の朝礼時に理念を復唱し、常に意識した動きとして取り組めるようになっていく。また、スタッフ会議の中でも理念に沿った話し合いを設けている。</p>	○	運営推進会議で地域との関わりを蜜に行なえる話し合いを行なっている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>常に目の届く場所に理念を掲示し、朝の朝礼時には皆で復唱を行なっている。また、日々のミーティングやスタッフ会議の際に運営指針を具体的に伝え、情報の共有を図っている。</p>	○	朝礼時の運営理念の復唱。各フロアごとに、毎月のユニット目標を自己評価項目より抜粋して取り組んでいる。スタッフ会議にてユニット目標の反省及び、翌月の目標を検討している。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>玄関に理念を掲示し、誰もが見ることが出来るようにしている。2ヶ月に1度の運営推進会議の場でも、理念を含めた取り組みを啓発している。</p>	○	誰もが見える場所に運営理念を掲示。ご家族へ毎月ホーム便りを発行し、理念に基づいた活動を報告している。2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、理念に基づいた取り組みを報告している。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。</p> <p>近所のスーパーなどへ買物や散歩に出た時に、近所の方への挨拶を行なっている。ホームで行なう行事の参加への呼びかけを行なっている(縁日・夏祭りなど)。</p>	○	散歩など外出した時の、近所の方々への挨拶。近所の子供達がホームで行なう行事への参加の呼びかけを増やしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会の集まりへの参加。花火大会や盆踊り大会など町内会行事への参加。元々住んでいた町内老人クラブなどへの継続した参加。</p>	○	町内の行事への参加(花火大会や盆踊りなど)
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議の場を利用し、町内回覧板などで福祉の仕組みなどを発信していく取り組みを検討中。近所に住んでいる高齢者の方々が、安心して生活できる環境づくりに協力出来るよう取り組んでいる。</p>	○	運営推進会議を開催し、地域の方々が安心して生活できるような話し合いを設けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員で自己評価について取り組み、サービスの質の向上に努めている。</p>		職員全員で自己評価に取り組んでいる。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議で挙げた意見や要望などは早急にスタッフ間で話し合うようにしている。地域に福祉サービスを知ってもらうために、回覧版の検討を行なっている。</p>	○	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、話し合った内容などをスタッフ間で共有している。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>積極的な取り組みまでには至っていない。</p>	○	定期的に状況報告などを兼ねて関わる機会を多く持っていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>外部研修などで学んでいるスタッフはいるが、ホームの中での学ぶ機会は不足している。</p>	○	外部研修だけではなく、勉強会の機会を設けていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>スタッフ会議や勉強会などの時間に、虐待防止の理解やそれに向けた取り組みを行なっている。</p>	○	適時虐待防止に対する話し合いの場を設け取り組んでいく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には十分な時間を設けて、理念や取り組み・サービス内容などの説明も行なっている。</p>		契約時には十分な時間を設けて、説明や質問などを受けるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関には意見・苦情箱を設置している。スタッフ皆が利用者の言葉や態度からその思いを察する努力を行い、より良い生活になるような支援を心掛けている。	○	今後も今以上に利用者からの意見や要望を聞き出すような取り組みをしていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月個人便りでの近況報告と預かり金の使用報告(レシート・領収書)を行なっている。また、適時何かあった時には連絡を行なう外に、2週間に1度の往診日のどちらかには必ず往診結果も含めた報告を行なっている。	○	面会時などにしっかりと時間を設けた話し合いや報告が必要。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関には意見・苦情箱を設置している。ホームのメールアドレスを毎月のお便りに記載し、メールによる意見なども行なえるようにしている。家族会を定期的開催し意見や要望を話し合える場を設け、内容をスタッフでの会議などで話し合うように努めている。	○	普段の面会時などの時を利用して、意見や要望を聞く時間をつくっていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議の時や個別に意見を聞く時間を設けているが、まだ不足している。	○	職員が話しやすい環境をもっと用意していく必要がある。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	決まった勤務体制はあるが、状況によって時間をずらしたりなどの調整を行なっている。		状況に応じて勤務時間をずらしたりなど、臨機応変に行なっている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職の際には時期を考慮したりしながら、利用者が混乱や不安にならないように馴染みのスタッフも交えた対応を行なっている。	○	元々いるスタッフと一緒に行動し、利用者の不安を軽減できるように配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部で行う研修には、積極的に参加を促している。また、社内のみや系列ホーム同士でも集まる機会を設けてスタッフ研修・勉強会などを行なっている。</p>	<p>○</p> <p>外部研修や事業所での勉強会を行なっている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同区内のグループホーム同士で開催している研修会や勉強会を通じて、交流する機会を設定し介護での悩みなどを話せる時間などを設けている。</p>	<p>○</p> <p>同区内での他事業所同士の交流会・勉強会の実施。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>同事業所や他事業所との研修会などでの交流を通して、気分転換が図れるように努めている。 しかし、個々での悩みやストレスの軽減に対する取り組みがまだ足りない。</p>	<p>○</p> <p>系列ホーム同士の研修会などでの交流。 不安や不満を本社に直接相談できるシステム。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得に対する支援を出来る限り行なっている。 コンピテンシー(個人評価)を定期的に行い、個々での評価を行なっている。</p>	<p>○</p> <p>コンピテンシーの実施。 現在はケアマネージャー取得に対しての支援。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用に至る前に面談を行い、安心して利用の出来る関係をつくれるように心掛けている。 本来の生活スタイルや求めていることなども出来る限り事前に把握し、スムーズに支援が出来るように努めている。</p>	<p>○</p> <p>面談時によるお互いの関係の構築。 細かなアセスメントの実施。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでの経緯や、不安に感じていることなどを聞く機会を設けるように努めているが、まだ充分には出来ていない。</p>	<p>○</p> <p>相談に関しては出来る限りの時間で話しを聴く時間を設けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者・家族の希望などを聞きながら、通所サービスの利用など必要と思われるサービスの利用を検討している。		通所サービスの利用。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用前に自宅などに出向いて関係を持てるように努めている。利用後ホームの生活に馴染めるように、家族と一緒に泊まることもある。家族からいろいろと情報をもらいながら、利用者との信頼関係の構築に努めている。		入居間もないことによる不安軽減のため、家族の宿泊。本人が馴染めるための家族との話し合い。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者から学ぶ場面はたくさんあるが、意図的にもそういった場面を作るように心掛け、支えあえるような関係づくりに努めている。喜怒哀楽を共感出来る関係づくりをさらに心掛けていきたい。	○	日々の生活動作の中で学ぶ場面をつくるように意識している。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とスタッフの思いを細かく話し合い情報共有に努め、本人を支えていくための協力関係を築くようになっていくが、まだ情報の共有の面では充分ではない部分が多い。	○	今以上の家族との思いの話し合いの場を設け、その人に対する気持ちをや関わり方の情報を共有していく必要がある。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の思い・家族の思いを受け止めて、それぞれの思いが結びつくことが出来るような働きかけが必要であるが、しかし、本人の思いは聞けていても家族との話し合いの時間をもっと深めていく必要がある。	○	一方の思いだけではなく、それぞれの思いを上手く引き出していく必要がある。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	身内の営業している店へ出かけて行ったり、老人クラブへの継続した参加の支援を行い、馴染みの人との関係が途切れることのないような生活を送れるように心掛けていく。	○	家族や知人の協力を得ながら、その人が今まで生活してきた中での馴染み深いものに継続して関わられるように意識して努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う方同士が、自然に支えあう関係が出来るように配慮している。 スタッフが状況を見ながら関係づくりの仲介役となったり、利用者同士の関係が円滑になるように心掛けている。	○	会話の内容や状況を把握しながら、スタッフがさり気なく間に入り関係を持ちやすくなるような関わりを心掛けている。 利用者同士が助け合ったり出来るように、必要以上にスタッフが利用者同士の関係の中には入らないようにしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用を終了されていても、遊びに来やすい雰囲気づくりや行事などへの誘いを行なっている。 すべての方への取り組みは出来てはいない。		ホームへ顔を出してくださる方に対しては、行事などの誘いを行なっている。しかし、病院に入院による退去などでは、こちらからの積極的な取り組みとしては継続して行なってはいない。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情・家族からの情報などからも把握していけるように心掛けている。	○	センター方式シートを活用したり、普段の会話や表情・家族や知人からの会話の中から把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時に本人や家族から情報を聞いている。 センター方式シートを活用している。 利用後も家族以外に知人などの面会があった際にも情報を得るように心掛けている。	○	センター方式シートを活用したり、普段の会話や表情・家族や知人からの会話の中から把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の生活スタイルや生活リズムをセンター方式シートも活用しながら、把握に努めている。 一緒に生活しながら出来ることなどを理解し、無理なく継続していけるものを探っている。	○	センター方式シートを活用したり、普段の会話や表情・家族や知人からの会話の中から把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の要望などを適時聴き、定期的にあセスメントを含めたモニタリング・カンファレンスを開き、より良い介護計画の作成に努めている。 現在カンファレンスには家族は参加しておらず、開示の時の説明のみである。	○	適時アセスメントや担当スタッフによるモニタリング、センター方式のシートを活用しながらカンファレンスを行なっている。 今後家族も参加できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回のケアカンファレンスを開催している。また、状況やニーズの変化に応じて家族とも相談しながら、都度サービス内容の評価・追加も行なっている。 現在、ケアカンファレンスの場には家族は参加していない。	○	定期的なケアカンファレンスの実施とケアプランの作成。 家族も参加したケアカンファレンスの実施。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	毎日個人記録を記入を行い、スタッフ間で情報を共有できるように日々の関わりや、ケアプランの見直しに役立てている。 十分にケアプランのサービスとして行なった内容が記入されていないこともある。	○	毎日の生活の様子・言動などを個人記録として残していく。 センター方式の中の24時間シートも活用し、1日の感情の変化もすぐに分かり毎日の関わり方に役立てている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居したことによる気持ちの不安を軽減できるように、家族と一緒にホームに泊まるなど、要望に応じた支援を行なっている。	○	家族も希望や本人の様子を見ながら、生活に慣れるようにホームに泊まることもある
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練を実施している。	○	避難訓練は消防の協力を得ながら行なっている。 ボランティアの活用を増やしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	生活の活性・リハビリを目的として、デイケアを利用している方もいる。		前から利用している通所サービスが継続できるように支援している。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議での参加により関係は築けているが、現在のところ細かな情報交換などが出来ていない。	○	運営推進会議での情報交換は行なっているが、必要時以外での関わりが不足しているため、さらに細かな情報交換に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム提携医療を担当医にしている方に対しては、隔週1回での往診がある。その他の医療機関への受診などについては、必要時にはホーム看護師・管理者などにより家族へ相談したうえで受診を行なっている。		提携病院については隔週1回の往診を行なっている。ホーム看護師との連携を図りながら、医療面でも不安のない生活が送れるように支援している。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい提携病院の医師による往診もあり、適時状態の変化や特変時には往診以外にも受診が受けられるような態勢をつくっている。		認知症に詳しい提携病院の医師による往診もあり、適時状態の変化や特変時には往診以外にも受診が受けられるような態勢をつくっている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を1名配属し、常に入居者の状態を把握している。緊急時や急変時には24時間対応で連絡が取れるようになっている。また、提携病院とも往診以外でも蜜に連絡を取り合い24時間受診や指示が受けられるような体制をとっている。	○	看護師・提携医療機関のオンコール対応。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	提携病院へ入居者の状態変化を蜜に報告しており、入院した時にはスムーズな対応ができるようにしている。入院した際にも状態変化や日常の様子を把握し、退院しても状態に合わせた対応を継続して行なえるようにしている。		ソーシャルワーカーや医師との話し合いを交えながら可能な限り早期で退院できるように努めている。ホーム内で実施可能なリハビリ等であれば医師の指導のもと早い段階で退院するようにしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応に関わる指針を提示している。状態が変化した際には、往診時などで医師から家族への説明を行なっている。		重度化した場合の対応に関わる指針を提示している。状態が変化した際には、往診時などで医師から家族への説明を行なっている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合の対応に係わる指針にて説明は行っている。今後も家族・本人の意向を聴きながら、出来る限り希望に沿える対応を担当医・看護師の協力を得ながら取り組んでいく必要がある。		提携病院による365日24時間いつでも緊急対応できるようにしている。ホーム看護師による24時間いつでも対応できる体制を整えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所などに移る際には、ケアプランや支援の状況などを細かく情報として伝え、精神的負担を最小限にした関わりを持つことが出来るように心掛けている。</p>	○	<p>細かな情報を伝え出来る限り負担が少なくなるように努めている。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者個人の生活歴、習慣などを全職員理解しており人生の先輩として常に敬意をもって接している。プライバシーを配慮した声かけや支援を心掛けている。</p>	○	<p>プライバシーを配慮した声かけやスタッフ同士の必要な会話の時には個人を特定出来ないように、会話の内容を意識している。まだスタッフ個々の意識としては薄い部分があり、配慮が必要。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々に合わせた声かけを考え、表情を読み取ったりわかりやすい説明を心掛けている。こちら側の意見だけではなく、自分で選んで生活が出来るような支援に努めている。</p>	○	<p>こちら側の一方的な提供だけではなく、出来る限りその人が選んで自分の生活を継続できるように努めている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な生活の流れは決まっているが、その時々に合わせてその人のペースにあわせた生活を過ごせるように心掛けている。</p>	○	<p>個々のペースに合わせた生活を考えて、スタッフがそこ二合わせるように心掛けている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>こちら側の一方的な衣類の用意ではなく、選んで着替えるような支援を行なっている。毎日化粧をする方にはさり気なく物品を用意したり、定期的に髪を染めるなど身だしなみやおしゃれに対して気持ちが継続してもっていけるように努めている。</p>	○	<p>外出する時の身だしなみの支援や、化粧をされていた方にはその人が自然に気持ちがいくようにさり気ない声掛けや関わりを行なっている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>調理・盛り付け・片付けなど出来ることを一緒に行なっている。スタッフと利用者が同じテーブルにて楽しく食事が出来るようにしている。</p>	○	<p>調理・盛り付け・片付けなど出来ることを一緒に行なっている。スタッフと利用者が同じテーブルにて楽しく食事が出来るようにしている。メニューを考えて買い物に行くなど、こちらから全てを決めずに一緒に考えていけるようなことも必要と思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	スタッフは入居者一人ひとりの嗜好を把握し、食事の味付けを工夫したり、好きなおやつをその方の様子をみながらお出ししている。飲酒に関しても、節度のある範囲で入浴後や外出した時などに楽しんでいただけるようにしている。喫煙される入居者は現在いない。	○	普段の会話や情報から嗜好を探り、味付けや盛り付けに工夫している。買い物に行き食べたいものを選んだり出来るようにしている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	必要な方には排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握したうえで時間での声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。声かけの仕方も、自尊心を傷つけないように配慮を心がけている。	○	必要な方には排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握したうえで時間での声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。声かけの仕方も、自尊心を傷つけないように配慮を心がけている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	特に入浴日は指定しておらず、日中であれば個々の好きな時間・好きな日に入浴できている。夜間(就寝前など)は現在行っていない。希望も聞かれてはいないが、就寝前の入浴を希望される方もいると思われる。		夜間や早朝の入浴など、更に個々の今までの生活スタイルの時間帯での入浴。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の1日のペースを把握し、必要な方には日中に休息できる時間が持てるようにしている。夜間ほどよい疲れによる安眠のために、日中に活動をもてるように関わっている。	○	安定剤などを内服している方に対して継続した評価・検討を行い、自然に眠ることが出来る関わりや活動を意識している。1日の中で状況に応じて休息できるように配慮している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割として掃除や畑仕事など、スタッフは個々に合わせた楽しみごとを考えながら生活を送れるように心掛けている。	○	カンファレンスやスタッフ会議の中で、個々に楽しみや役割が持てるよう話し合いを設けている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の理解も得ながら、本人が安心する程度の少額での所持に関して支援している。また、ホームで預っている方に対しても買い物をする際には自分で行なえるように、さり気なく支援している。		スタッフはお金を持つことの大切さを理解しており、必要な方には小遣い帳を利用するなどに対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出行事としてだけでなく、普段からスーパーへの買い物、自宅、散歩など希望時には出来る限り外出できるように支援している。	○	普段から買い物や、外出する機会を多くもてるように支援している。スーパーへの買い物は都度希望時に行けるように心掛けている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個々に会話の中から得た行ってみたい所などへ外出行事として月に2~3回は行なっている。身内の入院先へのお見舞い、行きつけの店、身内が経営している喫茶店などへの外出も個別に対応できるようにしている。	○	月に何度か大きな催し物として普段なかなか行くことの出来ない場所へ外出したり、知人のお見舞いや行きつけの店など希望の場所への外出も考えている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は居間のかけやすい場所に設置している。電話以外にも手紙を書く際には、さり気なく必要物品を用意するなど自然と行なっていける雰囲気づくりを意識している。		希望時に電話をかけられるようにしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族を始め、昔からの知り合いや近所に住んでいた友達、老人クラブの仲間などの訪問が多くある。一緒にくつろぎやすい環境を意識している。	○	家族を始め、昔からの知り合いや近所に住んでいた友達、老人クラブの仲間などの訪問が多くある。一緒にくつろぎやすい環境を意識している。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束取り扱い資料をフロアーに置き、いつでもスタッフが観ることができるようにし理解を深めケアを行なっている。また、研修やマスコミなどでの情報も共有し、日頃から意識し取り組んでいる。	○	身体拘束取り扱い資料をフロアーに置き、いつでもスタッフが観ることができるようにし理解を深めケアを行なっている。また、研修やマスコミなどでの情報も共有し、日頃から意識し取り組んでいる。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないという意図をそれぞれに理解し、入居者・訪問者が自由に行き来できるように居室を始め、玄関も日中は鍵をかけてはいない。	○	日中は居室・玄関などは自由に行き来が行なえるように、鍵を掛けないようにしている。それによるリスクを常に頭に入れ、スタッフ同士が協力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフはお互いのユニットの入居者の状況を理解しており、行き来していてもお互いに連携を図り危険のないように配慮している。 記録を行う際にもさり気なく見わたせる場所にて行うようにしている。	○	スタッフ同士が連携し、利用者全員の所在や様子の把握に努めている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	状況に応じて必要な物(包丁やハサミ、針など)を用意しているが、使用後には必ずスタッフが確認し片付けるようにしている。 夜間などで必要ではない時間には、万が一持ち出すことのないように鍵のかかる棚などに片付けている。		包丁は夜間など使用しない時には、危険がないように鍵のかかる棚に片付けている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを活用しスタッフ間で共有意識をもち、事故防止に努めている。 万が一事故が発生した際には事故報告書を記入し、今後の予防対策について検討している。	○	ヒヤリハットを活用しスタッフ間で共有意識をもち、事故防止に努めている。 万が一事故が発生した際には事故報告書を記入し、今後の予防対策について検討している。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急事故対応マニュアルを作成し、常にスタッフの目の届く場所に設置している。 看護師による緊急時対応の勉強会を行なっている。	○	緊急事故対応マニュアルを作成し、常にスタッフの目の届く場所に設置している。 看護師による緊急時対応の勉強会を行なっている。 定期的に勉強会や希望があれば利用者・家族も交えての勉強会の実施。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回利用者を交えて避難訓練を行なっている。 消防署の協力も得ながらの訓練も行なっている。	○	マニュアルを作成し、年2回利用者を交えて避難訓練を行なっている。 消防署の協力も得ながらの訓練も行なっている。 地域(近所)の方々への災害時の協力体制をHたら来かけていく必要がある。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	自由な生活を送る上で起こりうる様々なリスクを適時説明・理解を得るよう努めているが、充分ではない部分がある。	○	自由な生活を送る上で起こりうる様々なリスクを適時説明・理解を得るよう努めているが、充分ではない部分があるため、都度話し合いの時間として増やしていく必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタル測定以外にも、表情や食欲などを観察しながら適時測定し、状況により医療機関への受診を行なっている。	○	毎朝のバイタル測定以外にも、表情や食欲などを観察しながら適時測定し、状況により医療機関への受診を行なっている。 ホーム看護師の緊急時の24時間の報告態勢を行なっている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常にすぐに確認の出来る場所には個々の処方箋を服薬ファイルとして設置している。 内服薬の変更も受診・往診記録で適時確認できるようにしている。		常にすぐに確認の出来る場所には個々の処方箋を服薬ファイルとして設置している。 内服薬の変更も受診・往診記録で適時確認できるようにしている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	適度な運動や乳製品を取り入れたり、食材を工夫したりしているが下剤に頼ってしまっている部分がまだ多い。	○	出来る限り薬に頼らないように乳製品の摂取や適度な運動が行なえるように支援している。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の口腔状態に合わせて、必要な方には毎食後の口腔ケアを行なっている。	○	嚥下の悪い方や必要な方には毎食後の口腔ケアを行なっている。 最低でも朝夕の2回は行なうように支援している。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量をチェック表に記入し、スタッフ間で情報を共有できるように努めている。 摂取量を見ながら、少ない方には嗜好品を多く取り入れたりしている。	○	食事・水分の摂取量をチェック表に記入し、スタッフ間で情報を共有できるように努めている。 摂取量を見ながら、少ない方には嗜好品を多く取り入れたりしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し予防・対策に努めている。 予防接種の施工やノロウイルス対策としてペーパータオルの使用や、布きん類は適時消毒を行なっている。 洗面所には誤って誤飲しない様に配慮しながら、アルコール消毒液を設置している。	○	感染症マニュアルを作成し予防・対策に努めている。 予防接種の施工やノロウイルス対策としてペーパータオルの使用や、布きん類は適時消毒を行なっている。 洗面所には誤って誤飲しない様に配慮しながら、アルコール消毒液を設置している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は適時アルコール消毒を行なっている。 布きん類は1日2～3回で漂白殺菌している。 食材に関しては前日や当日に買い物を行なったり、冷凍保存し安全な食材を使用している。	○	調理用具は適時アルコール消毒を行なっている。 布きん類は1日2～3回で漂白殺菌している。 食材に関しては前日や当日に買い物を行なったり、冷凍保存し安全な食材を使用している。 衛生管理チェックシートなどで本人や家族なども安心出来る対応の検討。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は常に鍵を掛けずにいつでも出入りが出来るようにしている。 玄関外にはベンチを設置して、気軽に休めるようにしている。 季節の花を飾ったりして季節感を感じることが出来るようにしている。	○	玄関は常に鍵を掛けずにいつでも出入りが出来るようにしている。 玄関外にはベンチを設置して、気軽に休めるようにしている。 季節の花を飾ったりして季節感を感じることが出来るようにしている。 気軽に出入りしやすいような環境づくりを検討(環境委員)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活する中で感じる音(話し声・食事を作る音・掃除の音など)で家と感じてもらえるように意識的に取り組んでいる。	○	生活する中で感じる音(話し声・食事を作る音・掃除の音など)で家と感じてもらえるように、ユニットでの調理などで意識的に取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下のベンチには座布団と本を置き、静かな空間で一人で過ごせる場所を用意している。 ソファの配置なども考慮し、仲の良い利用者同士で過ごせるような環境を作っている。	○	廊下のベンチには座布団と本を置き、静かな空間で一人で過ごせる場所を用意している。 ソファの配置なども考慮し、仲の良い利用者同士で過ごせるような環境を作っている。 個々の居場所が増えるような取り組みを行なう必要がある。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	元々使っていた家具や布団を用意してもらい、自分の部屋として居心地が良く生活できるように支援している。	○	元々使っていた家具や布団を用意してもらい、自分の部屋として居心地が良く生活できるように支援している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計と利用者の様子を見ながら換気を適時行なっている。 トイレに関しては消臭剤や消臭スプレーを使用し、悪臭の出ない工夫を行なっている。	○	掃除の時や気温に応じての換気に努めている。 トイレの掃除は適時行なうようにして、悪臭のないように心掛けている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを設置している。 個々の身体機能に合わせて自室の家具の場所を考え、安全で自立した生活が送れるように努めている。	○	手すりを設置している。 個々の身体機能に合わせて自室の家具の場所を考え、安全で自立した生活が送れるように努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々にどのようにすれば分かりやすいのかを把握し、混乱や失敗を招かないような環境設定を心掛け、スタッフ間での情報共有に努めている。	○	センター方式のシートを活用したり、情報を共有しながら少しでも自立した生活が送れるように支援している。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には野菜を植えた畑を用意している。建物の周りにも花を植えて、水やりや草取りなど個々に得意なことで楽しめるようにしている。	○	畑で野菜を育てている。建物の周囲には花を育てている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>本人・家族からの情報をモニタリングに活用している。 しかし、使用しているセンター方式のシートをまだ活用しきれていない。</p>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>個々に必要な一緒にゆったりと過ごせるように心がけている。</p>
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>個々のペースを尊重できるように心掛けてはいるが、所々でスタッフやホームのペースにしてしまっている部分がある。</p>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>全ての利用者に対する配慮はまだ不足している。</p>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>希望時にはすぐに対応できるようには心掛けている。 状況により希望通りの対応が出来ていないこともある。</p>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>かかりつけの医師との連携やホーム看護師による対応が行なえている。</p>
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>個々の状況を把握するようには努めている。</p>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>今以上に時間をかけた情報共有や話し合いの時間を設ける必要がある。</p>
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>地域の方が気軽に訪ねてくる機会がまだ不足している。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くない 町内の方々の理解が少しずつ増えてきている。
98 職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ② <u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 今以上にストレスの解消の支援が必要である。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③ <u>利用者の1/3くらいが</u> ④ほとんどいない 希望通りの生活にはまだ至っていないと思われる。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③ <u>家族等の1/3くらいが</u> ④ほとんどいない 家族との情報共有をもっと必要と思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)